

# 第72回奥羽大学歯学会 プログラム・予稿集

日 時：2022年11月12日(土) 9:55～11:50

Zoomミーティングによるオンライン開催

連絡先：福島県郡山市富田町三角堂31-1

☎024-932-8931

奥羽大学歯学会

# お 願 い

## 会員の方へ：

1. [https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScxMY78sOfvldAZyUIEuyqvNPRMPfavcYMeDkEnXaPA\\_E4Vlw/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScxMY78sOfvldAZyUIEuyqvNPRMPfavcYMeDkEnXaPA_E4Vlw/viewform?usp=sf_link) から参加登録を済ませてください。
2. 入室後、発表者と座長以外は、マイクoff, カメラoff にしてください。
3. 討議の際には「手を挙げる」機能を使い、座長の指示を待ってください。

## 発表の要領：

1. 口演の演者は発表当日までに、所定の事後抄録を前田（E-mail：t-maeda@den.ohu-u.ac.jp）までテキスト添付にてご送信ください。（800字程度）
2. 口演発表
  - 1) 口演発表
    - ①参加者の環境機器は、多様である事が予想されます。スライドの文字サイズ等に配慮してください。
    - ②学会開催前日午後4時30分からZoomにて試写を行います。  
IDパスワードは学会当日と共通です。
    - ③利益相反 (COI) の開示：COIの有無に関わらずスライドでCOI状態を開示頂きます。全ての口演者は、2枚目のスライドに「利益相反 (COI) 開示について」の題目で報告をしてください。
  - 2) 口演時間  
口演時間は口演8分、討論2分の計10分です。  
時間の経過については、タイマーを用意いたします。

# 第72回奥羽大学歯学会プログラム

9:55 開会の辞

瀬川 洋 会長

一口演発表(学位口演7演題、一般口演3演題)一

座長 廣瀬 公治

10:00 ~ 10:10

1. *Candida tropicalis* 感染に対する宿主の免疫応答

○杉本一野<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1,2</sup>、清浦有祐<sup>1,2</sup>  
(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)  
研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0306

10:10 ~ 10:20

2. *Candida glabrata*の免疫不全宿主に対する病原性

○福島和美<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1,2</sup>、清浦有祐<sup>1,2</sup>  
(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)  
研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0306

10:20 ~ 10:30

3. 頬筋と上咽頭収縮筋の筋線維特性の解析

○入澤正晃、宇佐美晶信  
(奥羽大・大学院・口腔機能解剖)  
研修コード1101 関連項目 (1) 0401 (2) 0704

10:30 ~ 10:40

4. 上咽頭収縮筋顎咽頭部起始部の形態観察

○向井雄一郎、宇佐美晶信  
(奥羽大・大学院・口腔機能解剖)  
研修コード1101 関連項目 (1) 0401 (2) 0405

10:40 ~ 10:50

5. テアフラビン溶液による*Enterococcus faecalis*および*Streptococcus mutans*に対する殺菌効果に関する検討

○小澤慶之<sup>1</sup>、山田嘉重<sup>1,2</sup>、木村裕一<sup>2</sup>  
(奥羽大・大学院・保存修復<sup>1</sup>、奥羽大・歯・歯科保存<sup>2</sup>)  
研修コード0901 関連項目 (1) 0410 (2) 0412

## 座長 島村和宏

11:00 ~ 11:10

6. 公共データベースを用いた頭頸部扁平上皮癌におけるPOSTN遺伝子の発現量と予後と相関性

○神林直大<sup>1,5</sup>、前田豊信<sup>2,3</sup>、加藤靖正<sup>2,4</sup>、高田 訓<sup>1,5</sup>  
(奥羽大・大学院・顎口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔機能分子生物<sup>2</sup>、  
奥羽大・大学院・口腔機能回復<sup>3</sup>、奥羽大・大学院・口腔生理・生化<sup>4</sup>、  
奥羽大・歯・口腔外科<sup>5</sup>)

研修コード1107 関連項目 (1) 0502 関連項目 (2) 0202

11:10 ~ 11:20

7. 口唇腺からの分泌に関与する副交感神経線維の検索

○山本宏治郎<sup>1</sup>、國分瑚楠<sup>1</sup>、柴田達也<sup>2</sup>、安部仁晴<sup>3</sup>、宇佐美晶信<sup>3</sup>  
(奥羽大・歯・学生<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>、  
奥羽大・歯・生体構造<sup>3</sup>)

研修コード1101 関連項目 (1) 0401 (2) 0301

11:20 ~ 11:30

8. 過去5年間に歯周病科で行われた歯周外科治療の実態調査

○木村祐輝<sup>1</sup>、山崎厚作<sup>1</sup>、山崎幹子<sup>2</sup>、高橋慶壮<sup>1</sup>  
(奥羽大・歯・歯科保存<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

研修コード0501 関連項目 (1) 0901 (2) 0603

11:30 ~ 11:40

9. 新規Ni-Ti製ロータリーファイルの彎曲根管形成能の評価

○佐藤穩子、橋本有加、神庭一郎、茂呂有司、金澤朋昭、長崎慶太、木村裕一  
(奥羽大・歯・歯科保存)

研修コード1001 関連項目 (1) 0410 (2) 0499

11:40 ~ 11:50

10. 歯周炎患者における加速矯正治療の有用性に関する後ろ向きコホート研究

○田中真喜<sup>1,2</sup>、高橋慶壮<sup>1,3</sup>  
(奥羽大・大学院・歯内・歯周療法<sup>1</sup>、医療法人社団誠敬会<sup>2</sup>、  
奥羽大・歯・歯科保存<sup>3</sup>)

研修コード0599 関連項目 (1) 0802 (2) 0501

11:50 閉会の辞

川合宏仁 副会長

# 口演発表抄録

10:00 ~ 11:50

## 1. *Candida tropicalis* 感染に対する宿主の免疫応答

○杉本一野<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1,2</sup>、清浦有祐<sup>1,2</sup>

(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

死亡率が高い重篤なカンジダ症であるカンジダ血症の原因菌は、最も多い *Candida albicans* (*C.albicans*) 以外に *Candida tropicalis* (*C.tropicalis*) や *Candida glabrata*, *Candida krusei* などがある。それらは *non-albicans Candida spp.* とされるが、感染力や宿主の免疫応答に関しては、*C.albicans* に比較して不明な点が多い。本研究では、その中の *C.tropicalis* に注目して、病原性と宿主の免疫応答について明らかにすることを試みた。その結果、*C.tropicalis* は *in vivo* の感染実験において、致死性に関与すると考えられる炎症性サイトカインに関して、免疫不全マウスでは特異的な産生動態を示すことが明らかにされた。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0306

## 2. *Candida glabrata* の免疫不全宿主に対する病原性

○福島和美<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1,2</sup>、清浦有祐<sup>1,2</sup>

(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

カンジダ症の主な原因は *Candida albicans* (*C.albicans*) と考えられてきたが、最近では *non-albicans Candida spp.* である *C.albicans* 以外の *Candida spp.* が原因となる割合が増加している。その中でも特に *Candida glabrata* (*C.glabrata*) は、易感染性宿主に対してカンジダ血症のような重篤なカンジダ症を起こす頻度が高いとされている。本研究では成熟したT細胞を欠如した免疫不全マウスを用いた *in vivo* の感染実験によって、*C.glabrata* の病原性を明らかにすることを試みた。その結果、*C.glabrata* が免疫不全マウスに対して炎症性サイトカインの産生誘導などを介した強い病原性を発揮することが明らかにされた。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0306

## 3. 頬筋と上咽頭収縮筋の筋線維特性の解析

○入澤正晃、宇佐美晶信

(奥羽大・大学院・口腔機能解剖)

頬筋と上咽頭収縮筋は互いに翼突下顎縫線により接しており、その形に人種差があると報告されている。また、筋線維の組成は鰓弓性の筋と体節由来の筋では異なるとの報告もみられる。そこで本研究では無歯顎の実習体を用いて、翼突下顎縫線の形態を観察するとともに、免疫組織化学的に速筋型の比率を調べることを目的とした。今回、翼突下顎縫線の分類結果と、頬筋と上咽頭収縮筋での速筋の比率について報告する。

研修コード1101 関連項目 (1) 0401 (2) 0704

#### 4. 上咽頭収縮筋顎咽頭部起始部の形態観察

○向井雄一郎、宇佐美晶信  
(奥羽大・大学院・口腔機能解剖)

口腔底深部に存在する顎舌骨筋と上咽頭収縮筋顎咽頭部の下顎骨への付着部の関係について詳細な報告はみられない。そこで、実習体でこれらの筋の付着部について観察するとともに、顎舌骨筋と上咽頭収縮筋の速筋線維の比率を調べることでそれぞれの筋線維特性を解明することを目的とした研究をおこなった。今回、顎舌骨筋と上咽頭収縮筋の、付着部の位置関係と、速筋の発現比率について報告する。

研修コード1101 関連項目 (1) 0401 (2) 0405

#### 5. テアフラビン溶液による*Enterococcus faecalis*および*Streptococcus mutans*に対する殺菌効果に関する検討

○小澤慶之<sup>1</sup>、山田嘉重<sup>1,2</sup>、木村裕一<sup>2</sup>  
(奥羽大・大学院・保存修復<sup>1</sup>、奥羽大・歯・歯科保存学<sup>2</sup>)

テアフラビンは紅茶の主成分であり、緑茶の主成分として知られるカテキン2分子が酸素による酸化発酵過程で重合することにより生成される。そのためカテキンに類似した抗菌作用を有するとともにその抗菌効果はカテキンより優ると考えられている。本研究では*Enterococcus faecalis* および *Streptococcus mutans* に対してテアフラビンおよびカテキンの殺菌効果を比較検討し、両細菌に対してテアフラビンがカテキンより殺菌効果が優ることを確認した。

研修コード0901 関連項目 (1) 0410 (2) 0412

#### 6. 公共データベースを用いた頭頸部扁平上皮癌におけるPOSTN遺伝子の発現量と予後と相関性

○神林直大<sup>1,5</sup>、前田豊信<sup>2,3</sup>、加藤靖正<sup>2,4</sup>、高田 訓<sup>1,5</sup>  
(奥羽大・大学院・顎口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔機能分子生物<sup>2</sup>、  
奥羽大・大学院・口腔機能回復<sup>3</sup>、奥羽大・大学院・口腔生理・生化<sup>4</sup>、  
奥羽大・歯・口腔外科<sup>5</sup>)

頭頸部扁平上皮癌は5年生存率が60%の予後不良な疾患であり、予後解析のために様々な遺伝子が特定されている。ペリオスチン (POSTN) は細胞外マトリックスタンパク質の一種であり、頭頸部扁平上皮癌組織中の過剰発現が報告されている。

今回、我々は公共データベースである The Cancer Genome Atlas (TCGA) および Gene Expression Omnibus (GEO) を用いて、頭頸部扁平上皮癌における POSTN の発現量と予後の相関性を検査した。

結果、POSTN の過剰発現は生存率を低下させ、特に p53タンパク質の機能損失症例において顕著であった。

研修コード1107 関連項目 (1) 0502 (2) 0202

## 7. 口唇腺からの分泌に関与する副交感神経線維の検索

○山本宏治郎<sup>1</sup>、國分瑚楠<sup>1</sup>、柴田達也<sup>2</sup>、安部仁晴<sup>3</sup>、宇佐美晶信<sup>3</sup>  
(奥羽大・歯・学生<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>、  
奥羽大・歯・生体構造<sup>3</sup>)

大唾液腺の分泌に関係する神経は知られているが、口唇腺に分布する自律神経の経路は不明のままである。モルモットでは耳神経節から出た副交感神経の節後線維が下歯槽神経でみられたとの報告があり、ヒトの下歯槽神経も口唇腺の分泌を支配する副交感神経線維を含む可能性がある。そこで、下唇の口唇腺を支配する副交感神経線維の経路を探索するため下歯槽神経とオトガイ神経を採取し、組織学的観察を行い、神経細胞体の有無について検討を行った。

研修コード1101 関連項目 (1) 0401 (2) 0301

## 8. 過去5年間に歯周病科で行われた歯周外科治療の実態調査

○木村祐輝<sup>1</sup>、山崎厚作<sup>1</sup>、山崎幹子<sup>2</sup>、高橋慶壮<sup>1</sup>  
(奥羽大・歯・歯科保存<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

本学附属病院歯周病科で過去5年間に行った歯周外科治療575例の詳細を報告する。

組織付着療法 (FOP 153)、組織再生療法 (リグロス134, EMD 3, GTR 1)、歯周形成手術 (臨床的歯冠長延長術 56, 遊離歯肉移植術 31, 結合組織移植術 9) およびインプラント治療 (一次手術 81, 二次手術 42, サイナスリフト 8, GBR 1)、その他 (外科的診断 9, 意図的再植 7, 歯根端切除術 5, ヘミセクション 5, ルートセパレーション 5, 骨整形術 2, トリセクション 1, コンビネーション治療等 22)。

研修コード0501 関連項目 (1) 0901 (2) 0603

## 9. 新規Ni-Ti製ロータリーファイルの彎曲根管形成能の評価

○佐藤穩子、橋本有加、神庭一郎、茂呂有司、金澤朋昭、長崎慶太、木村裕一  
(奥羽大・歯・歯科保存)

Ni-Ti 製ロータリーファイルは彎曲根管に対して効率的に根管形成ができる器具として普及が進み、新製品の開発も活発に行われている。TruNatomy Shaping File は低侵襲の根管治療を行うことで歯質を残存し、治療後の強度を維持できるとされている。本研究では、当院総合歯科診療室および学生実習で使用されている Ni-Ti 製ロータリーファイルと根管形成能を比較し、若干の知見を得たのでここに報告する。

研修コード1001 関連項目 (1) 0410 (2) 0499

## 10. 歯周炎患者における加速矯正治療の有用性に関する後ろ向きコホート研究

○田中真喜<sup>1,2</sup>、高橋慶壮<sup>1,3</sup>

(奥羽大・大学院・歯内・歯周療法<sup>1</sup>、医療法人社団誠敬会<sup>2</sup>、  
奥羽大・歯・歯科保存<sup>3</sup>)

歯周炎患者の病的な歯の移動や歯列不正は歯周炎の増悪因子になり得る。歯周炎患者に矯正治療を行う際には、歯根吸収やアンカーロスなどの問題に加えて、治療の長期化によるモチベーションの低下に配慮する必要がある。

今回、歯周病患者に対しコルチコトミーと歯周組織再生療法を併用した加速矯正処置の有用性について評価した。その結果、顕著な歯根吸収やアンカーロスを起こさなかっただけでなく、治療期間は通常の成人矯正の約1/3の期間で完了した。

研修コード0599 関連項目 (1) 0802 (2) 0501



第73回奥羽大学歯学会予定  
日時：2023年6月17日(土)

---

—歯学会学会委員—

福井和徳（成長発育歯）\*、前田豊信（口腔機能分子）\*、宇佐美晶信（生体構造）、  
島村和宏（成長発育歯）、菊井徹哉（歯科保存）、古山 昭（口腔機能分子）、  
大橋明石（口腔衛生）、御代田駿（口腔外科）、千葉駿一郎（歯科保存）

\*学会委員会理事

---